

平成27年仕事始め式 市長訓示

平成27年1月5日
午前9時
市民ホール大ホール

新年明けましておめでとうございます。

職員の皆さんには、お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、皆さんには昨年も、「元気な自立都市 越前」の創造に向け、それぞれの部署で市民福祉の向上に努められるとともに、市民との協働のまちづくりや東日本大震災の被災地である宮城県塩竈市での支援活動にご尽力をいただき、誠にありがとうございました。

併せて、新年早々の大雪への対応にお礼申し上げます。

さて、昨年を振り返ると、3月市議会において、本庁舎を現所在地に建て替えるとともに、今立総合支所を改築して存続するとの方針等を盛り込んだ「新市建設計画」の変更議案が可決され、「半世紀に一度のまちづくり」が大きなスタートを切ったこと、継体天皇ゆかりの「桜」の縁により、旧今立町と旧根尾村

が友好都市提携を行って20周年を迎えたため、4月に本市の花筐公園と本巢市の淡墨公園でそれぞれ記念式典を開催したこと、福井県で50年振りとなるコウノトリのヒナが6月に3羽誕生したこと、丹南総合公園の体育館が9月に、全天候型球技場とゲートボール場が11月に供用を開始し、丹南総合公園のスポーツエリアが全て完成したこと、平成30年の国体開催に向け、福井しあわせ元気国体・障害者スポーツ大会市準備委員会を設立したことなど、各分野において着実な成果を上げることができました。

これも偏に、市議会や市民の皆様のご支援、並びに職員の方のご尽力の賜物であり、深く感謝申し上げます。

さて、早いもので本年10月1日に、越前市が誕生して10周年を迎えます。

本年は越前市にとって、新庁舎の建設や武生中央公園の再整備、北陸新幹線南越駅（仮称）の周辺整備など、「半世紀に一度のまちづくり」の方向性が決定する重要な1年となります。

新庁舎の建設については、「まちの活性化とまち空間再生の大きな契機とする」を基本理念に、「まちの顔となる新庁舎」「市

民に愛され、多様な市民の参画・協働の場となる新庁舎」など5つを基本的な整備方針に位置付け、昨年9月に本庁舎と今立総合支所の両市民検討委員会を設置し、新庁舎の機能や規模について議論を深めており、本年の夏頃に基本構想・基本計画を策定いたします。

本年4月から産業環境部が駅前のセンチュリープラザ2階に移転し、第2・第3庁舎が解体撤去されるなど、具体的な工事が始まり、市民の関心も高まっていくことから、市民フォーラム等の開催やパブリック・コメントの実施などを通して、より多くの市民の意見の反映に努めてまいります。

武生中央公園の再整備については、昨年3月に策定した基本計画の整備方針に基づき、本市のセントラルパークとして幅広い世代の市民が憩い・遊び・学び・楽しむ公園を目指して、本年度末に基本設計・実施設計を策定いたします。

本年から市営野球場を解体して市民の広場や駐車場等を拡充するとともに、体育館を改築するなど、平成30年の福井国体を目指して、再整備を行ってまいります。

北陸新幹線については、昨年9月に南越駅周辺整備基本計画

策定委員会を設置し、開業までに必要な施設や中長期的な土地利用計画などについて議論を行っており、越前市らしさや丹南地域の特性を生かした、丹南地域の玄関口に相応しい南越駅周辺整備基本計画を本年の秋頃に策定いたします。

北陸新幹線の敦賀までの開業時期については、3年前倒しに向けて政府・与党が議論を深めており、本市は引き続きその確実な実現を強く求めていくとともに、平成35年春の開業を視野に、南越駅の周辺整備を着実に進めてまいります。

人口問題への対策については、昨年9月に設置した市人口問題・定住化促進対策会議での施策の柱に沿い、短期的には業績の好調な市内企業の求人活動に呼応した取組みを、中長期的には非婚・晩婚化対策や従来から進めている子育て支援策等の充実など、本市の強みを生かした実効性の高い施策を実施していくとともに、本市の人口の動向を分析し将来展望を示す市人口ビジョン、並びに平成31年度までの目標や基本的方向性、施策の体系を示す市総合戦略を平成27年度に策定いたします。

産業の振興については、市産業活性化プランに基づき、多様な施策を展開した成果として、本市が平成21・22年度に拡

張した池ノ上工業団地においてアイシンAW工業㈱が新工場の建設を、また㈱福井村田製作所も新生産棟の建設を進めており、本年の秋頃に操業が予定されています。

一方、中小企業の振興については、市中小企業振興基本条例の制定に向けて現在、パブリック・コメントを実施しており、伝統的工芸品等の地域資源の活用や小規模事業者への配慮など、理念条例として本市の特性を踏まえた前文を設けるとともに、本文では市・中小企業者・中小企業団体・大企業者の役割、並びに市民の理解と協力を規定することとし、本年4月の施行を目指してまいります。

同条例の施行を受け、平成27年度には市産業活性化プランの改定を行い、市内企業の設備投資の促進や新規雇用の拡大に向け、産業振興策の一層の拡充を図ってまいります。

越前和紙や越前打刃物、越前箆笥など伝統産業の振興については、市工芸の里構想を本年度末に策定し、各産地の活性化と産地連携による観光振興に力を注いでまいります。

コウノトリが舞う里づくりについては、昨年6月に福井県内で50年振りに誕生したコウノトリの「げんきくん」「ゆうきく

ん」「ゆめちゃん」の放鳥が本年中に期待されており、ふるさと越前市に定着することを願い、里地里山の保全再生を促進するとともに、市食と農の創造ビジョン基本計画の本年度末の改定を踏まえ、環境調和型農業等の一層の推進を図ってまいります。

原子力防災については、避難の実施単位や市内における避難ルートに関して県や関係市町との協議が整ったことから、今月26日に市防災会議を開催し、市地域防災計画（原子力災害対策編）の住民避難計画を改定いたします。

しかし、安定ヨウ素剤の配布方法や避難行動要支援者の輸送手段など重要な課題が残されているため、関西電力高浜原発3・4号機の再稼働の議論に先立ち、原子力防災体制の一層の強化を図るよう国・県に強く求めてまいります。

このほか市教育振興ビジョン、市障がい者計画及び第4期市障がい福祉計画、第6期市高齢者福祉保健計画・介護保険事業計画、市子ども・子育て支援事業計画の素案を取りまとめ、現在はパブリック・コメントを実施しており、本年度末の計画策定を踏まえ、引き続き教育の振興や福祉のまちづくりに力を注いでまいります。

なお、本年は市制施行10周年を迎えることから、越前市の誕生10周年を祝うとともに、市民との協働のまちづくりを推進するため、平成27年度に記念事業を実施していきたいと考えています。

本年も越前市では、「半世紀に一度のまちづくり」やコウノトリが舞う里づくり、子どもたちの夢を育む教育の推進など、長期的な視点から「ひとづくり、ものづくり、まちづくり」に取り組み、人と人との絆づくりや自然との共生を重視した、安定感と安心感のある市政を目指してまいります。

職員の皆さんには、本市の将来に大きな夢を描き、それぞれの部署で職務に精励し、「現地現場主義」の実践を通して市民のニーズを的確に汲み取り、市民の期待に応えて本年も市政の推進にご尽力いただきますようお願いいたします。

その際、「着眼大局、着手小局」と言われるように、全職員が20年先、30年先の越前市を見据える大局観を持ちながらも、目の前の課題に丁寧に取り組み、当たり前のことを当たり前実践する風土を庁内に築いていくことが肝要と考えています。

当たり前のことが確実に実践できる組織は、災害など危機の到来に対しても強靱であり、一人ひとりの市民を大切にす
る温かい施策の推進につながっていきます。

併せて、一人ひとりの職員を大切にす温かい職場づくり
にもつながっていきます。

職員数が600人に減少した現在、前例にとられること
なく、従来の思考や手法を大胆に見直していく気概が組織に
は求められており、特に若手職員や女性職員が積極的な提案
を行い、その提案が活かされる気風を庁内に築いていきたい
と思います。

最後に、年末に大変残念な職員の不祥事が発生しました。

極めて遺憾であり、市民の皆様に深くお詫び申し上げます
とともに、市民の皆様の信頼回復に向け、職員の皆さんには
従来にも増して自らを厳しく律し、緊張感を持って職務の遂
行に努めていただくことをお願いします。

結びに、皆さんが本年も心身ともに健康で、市民福祉の向
上のために大いに活躍されることを祈念し、「平成27年
仕事始め式」の訓示といたします。